

重要項目	14	生涯学習の支援	担当課名																				
施策目標	(2)	生涯スポーツの振興	地域教育課																				
主要事業	①	四條畷市マラソン大会等の実施																					
年度の目標	NPO法人四條畷市体育協会、四條畷市体育振興協議会、四條畷市スポーツ少年団本部などのスポーツ団体と協働し、市民の体力づくりや地域が主体となるスポーツ振興の仕組みづくりとして、本市の特色を生かした事業を実施することにより、市民のスポーツに対する興味を高めるように努める。また、スポーツ教室や市民総合体育大会を実施することにより、市民のスポーツへの関心を高め、スポーツの振興に寄与する。																						
計画の概要	市主催事業としてスポーツ教室は、本市の特色を生かした事業と、トップアスリートによる指導を実施する。市民総合体育大会は、市民へのスポーツの振興、普及発展及び市民の健康増進の親睦を深める。 北河内各市及び各市体育協会(連盟)と協働して行う北河内区総合体育大会及び北河内地区駅伝競走大会は、北河内地区住民へのスポーツの振興、普及発展とアマチュア精神の高揚を図り、7市間の親睦に寄与する。 市内各団体と連携、協力して四條畷市マラソン大会を実施する。																						
活動の実績	<p>スポーツ教室は3月24日に総合公園多目的広場で野球教室を開催し、元中日ドラゴンズの立浪和義氏を迎えて実技指導を実施した。中学校1年生8人、2年生24人の計32人の市内生徒が参加した。</p> <p>市民総合体育大会は市内体育施設等を利用し、5月から12月にかけて15種目を実施した。</p> <p>北河内地区総合体育大会は、6月から7月にかけて開催され、9種類24種目中22種目の参加があった。また、北河内地区駅伝競走大会は2月に実施したが、参加チームはなかった。</p> <p>四條畷市マラソン大会を緑の文化園及び周辺道路で実施し、1月28日に実施し合計参加者1,639人、完走者1,592人という結果となった。</p> <p>生駒市との協働として、生駒市主催事業の生駒山スカイウォークへの参加者を市民に呼びかけた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>開催日</th> <th>開催場所</th> <th>内容</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スポーツ教室</td> <td>3月24日</td> <td>総合公園多目的広場</td> <td>中学生硬式野球</td> <td>32人</td> </tr> <tr> <td>市民総合体育大会</td> <td>5月～3月</td> <td>市内体育施設等</td> <td>15種目</td> <td>2,157人</td> </tr> <tr> <td>マラソン大会</td> <td>1月28日</td> <td>緑の文化園及び周辺道路</td> <td>ファミリーの部 小学生2キロ男女の部 中学生3キロ男女の部 一般3キロ男女の部 一般10キロ男女の部</td> <td>1,639人</td> </tr> </tbody> </table>				開催日	開催場所	内容	参加人数	スポーツ教室	3月24日	総合公園多目的広場	中学生硬式野球	32人	市民総合体育大会	5月～3月	市内体育施設等	15種目	2,157人	マラソン大会	1月28日	緑の文化園及び周辺道路	ファミリーの部 小学生2キロ男女の部 中学生3キロ男女の部 一般3キロ男女の部 一般10キロ男女の部	1,639人
	開催日	開催場所	内容	参加人数																			
スポーツ教室	3月24日	総合公園多目的広場	中学生硬式野球	32人																			
市民総合体育大会	5月～3月	市内体育施設等	15種目	2,157人																			
マラソン大会	1月28日	緑の文化園及び周辺道路	ファミリーの部 小学生2キロ男女の部 中学生3キロ男女の部 一般3キロ男女の部 一般10キロ男女の部	1,639人																			
実績の評価	評価の内容																						
A	市民の健康増進、親睦を深める上記の事業が滞りなく完了したため、評価をAとする。																						
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳																				
			国府支出金 地方債 その他 一般財源																				
27	1,000 千円	1,000 千円	0 千円 0 千円 0 千円 1,000 千円																				
28	900 千円	900 千円	0 千円 0 千円 0 千円 900 千円																				
29	2,743 千円	2,643 千円	0 千円 0 千円 0 千円 2,643 千円																				
現状の課題																							
市民が定期的実施できる機会の提供と、ニーズに沿った事業を実施することが必要である。 新たにスポーツを始めるきっかけづくりの場を設けるために、各スポーツ団体との協力は必要だが、市民自ら身近にあるスポーツ資源を活用し、継続的にスポーツを気軽に親しむことのできる環境づくりが必要である。 マラソン大会については参加者及び協賛金の伸び悩みがみられ、日程や会場について再考の余地がある。																							
今後の取組み																							
本市の環境を活かしたスポーツイベントを実施し、スポーツに対する興味や意識の向上につなげるとともに、各種スポーツ団体と連携、協力のもと、地域に根ざしたスポーツ振興の体制づくりに努める。また、総合公園と生駒山麓公園が隣接しているので、生駒市との連携事業を進めていく。																							

重要項目	14	生涯学習の支援	担当課名																										
施策目標	(3)	文化・芸術の振興	地域教育課																										
主要事業	①	市民文化祭の開催等																											
年度の目標	市民の文化芸術体験機会の創出として、市の事業として市民文化祭、コーラスフェスティバルを開催する。また文化協会を含む市内各団体と協働して文化芸術の振興に取り組む。さらに、第2次文化芸術振興計画に基づき市施策を推進し、文化芸術振興計画進捗状況等意見聴取会において有識者から意見を聴取する。																												
計画の概要	文化芸術振興計画に基づく取組みを推進する。また、伝統文化の継承や市民が文化活動を通じてより豊かな人格形成ができるよう文化活動を支援することをねらいとして市民文化祭を開催する。さらに、市民が伝統文化や文化活動を体験できるよう、文化協会主催事業につき補助金を支出する。																												
活動の実績	<p>第2次文化芸術振興計画に基づき行われた市の事業を確認し、文化芸術振興計画進捗状況等意見聴取会を開催して有識者から市事業についての意見を頂戴した。</p> <p>地域文化の向上や創作活動を普及促進するため、市民の文化芸術活動を発表する場として市民文化祭を開催した。今年度はバザーの代わりに「アート、ものづくりワークショップの部」を新設し、日ごろの活動成果を発表できる対象を拡大した。ゲストとして岡直哉さんによるクロマチックハーモニカ演奏及び笑福亭鶴志さんによる落語を行った。実績は下記の通りである。また、同時に子ども教室作品112点の発表及び識字にほんご教室20周年記念パネル展ほかの事業も開催した。</p> <p>文化協会主催のサマーフェスティバルにつき、市民が伝統文化や文化活動を体験できるように、活動を支援するため補助金を交付した。</p> <p>市内文化人を把握するために文化団体等へ聴取りを行い、新たな文化人が把握できただけでなく、一部の方については協力体制を確認できた。市内在住の文化人の核となる人材については、文化協会だよりでその活躍を取り上げ宣伝活動を行ったうえ、市民文化祭や議場コンサート等で発表の場を提供し、それぞれ市民に周知した。</p> <p>□市民文化祭実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>舞台出演団体</th> <th>展示出展数</th> <th>模擬・バザー団体</th> <th>ワークショップ参加者数</th> <th>参加者数(延べ人数)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27</td> <td>34</td> <td>237</td> <td>12</td> <td>—</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>35</td> <td>247</td> <td>11</td> <td>—</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td>29</td> <td>41</td> <td>230</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>2,000</td> </tr> </tbody> </table>					年度	舞台出演団体	展示出展数	模擬・バザー団体	ワークショップ参加者数	参加者数(延べ人数)	27	34	237	12	—	2,000	28	35	247	11	—	2,000	29	41	230	11	8	2,000
年度	舞台出演団体	展示出展数	模擬・バザー団体	ワークショップ参加者数	参加者数(延べ人数)																								
27	34	237	12	—	2,000																								
28	35	247	11	—	2,000																								
29	41	230	11	8	2,000																								
実績の評価	評価の内容																												
A	市民文化祭の部門拡充や文化協会への補助等市民の文化活動の場の提供など、上記の事業が滞りなく完了したため、評価をAとする。																												
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳																										
			国府支出金	地方債	その他	一般財源																							
27	515 千円	515 千円	0 千円	0 千円	0 千円	515 千円																							
28	515 千円	515 千円	0 千円	0 千円	0 千円	515 千円																							
29	515 千円	515 千円	0 千円	0 千円	0 千円	515 千円																							
現状の課題																													
市民文化祭については舞台構成のあり方などマンネリ化の解消、その他文化協会や市民総合センター、教育文化センターの指定管理者等と協力し、優れた文化芸術の鑑賞機会の拡大を図る。																													
今後の取組み																													
第2次四條畷市文化芸術振興計画に基づく進捗管理を行う。特に、市民文化祭や伝統文化継承事業、市民の文化活動の活性化に向けた取組みを推進する。																													

重要項目	14	生涯学習の支援	担当課名												
施策目標	(4)	社会教育関係団体への支援、市民へ社会教育資源の情報提供	地域教育課												
主要事業	①	社会教育関係団体の自立運営に向けた支援、情報提供													
年度の目標	<p>市民団体である各種社会教育団体の自立支援のための情報提供、特に、市の文化芸術の振興に尽力している文化協会からの情報提供や活動支援を行う。また、生涯学習ボランティア制度(注)を市民にアピールし、登録者の活動の幅を広げるとともに、様々な知識、技能を持つ人材の発掘及び登録の呼びかけを行い、生涯学習、地域活動の推進に努める。</p> <p>(注)生涯学習ボランティア制度:生涯にわたる「自分づくり」「魅力あるまちづくり」の視点から生涯学習を推進していくために、個人の持つ知識や技能・資格や経験、趣味などの貴重な「力」をいつでも、どこでも、誰でも、自由に学び教え、互いに支え合う、生涯学習ボランティアとして生かしてもらうために、すでに各分野でボランティアとして活動している人、また機会があれば活動したいと思っている人に幅広く登録を呼びかけ、様々な理由でボランティアを必要としている人に紹介する制度。</p>														
計画の概要	<p>各種社会教育団体に自立支援に向けた支援や情報提供を行う。また、生涯学習ボランティア制度を活用し、より多くの市民の豊かな経験、知識、趣味、技術や技能などを、それを必要とする個人や団体、地域に活かしていくことで、生きがいある魅力あるまちづくりに繋げていくことに努める。</p>														
活動の実績	<p>生涯学習ボランティアは、新規登録と登録取消がそれぞれ1件あり、個人52人、団体17団が登録している。依頼内容は、福祉施設の慰問やイベントの講師としての依頼があり、大正琴やピアノ演奏、マジック披露、伝承玩具づくりの指導など、件数は下表のとおりであった。利用された方からは、ボランティアの方の丁寧な対応で楽しく貴重な時間が過ごせたとの喜びの声が届いた。</p> <table border="1" data-bbox="438 1048 1173 1216"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>依頼件数</td> <td>7件</td> <td>10件</td> <td>14件</td> </tr> <tr> <td>受託件数</td> <td>6件</td> <td>7件</td> <td>10件</td> </tr> </tbody> </table>				平成27年度	平成28年度	平成29年度	依頼件数	7件	10件	14件	受託件数	6件	7件	10件
	平成27年度	平成28年度	平成29年度												
依頼件数	7件	10件	14件												
受託件数	6件	7件	10件												
実績の評価	評価の内容														
A	生涯学習ボランティアについて、依頼件数及び受託件数が増加したことから評価をAとする。														
現状の課題															
生涯学習ボランティアは、登録者の活用方法をさらに検討し、活躍の幅を広げることや市民への情報発信の方策が課題である。															
今後の取組み															
生涯学習ボランティアは、地域の様々な知識や技能等を持つ人、団体を発掘するとともに、活用の充実に努め、生涯学習、地域活動の推進を図る。															

重要項目	14	生涯学習の支援	担当課名																																																				
施策目標	(5)	人材の育成	地域教育課																																																				
主要事業	①	体育文化奨励賞、歴史散策「おおさかふみんネット」の実施																																																					
年度の目標	<p>体育文化奨励賞を実施することにより、市民の文化、スポーツへの関心を高め、文化、スポーツの振興に寄与する。</p> <p>また、大阪府、市町村生涯学習ネットワークの事業として「広域講座おおさかふみんネット 聞く・見る・歩く 北河内パート18」を実施する。</p>																																																						
計画の概要	<p>体育文化奨励賞は、体育及び文化活動において、特に功績が顕著な者又は団体に対し奨励賞を授与し表彰することにより、体育及び文化活動の振興、発展を促進する。</p> <p>体育奨励賞は、国又は地方公共団体が主催、共催又は後援する競技会において、全国規模で6位、近畿規模で3位、大阪府規模で1位、国民体育大会では8位になった者又は団体に、文化奨励賞は、国又は地方公共団体が主催、共催又は後援する文化活動において、全国規模で入選又は入選と同等の成績、近畿規模及び大阪府規模で入賞又は入賞と同等の成績をあげた者又は団体に授与する。また、長年にわたり本市の体育振興、文化の発展に寄与し、特に功績が顕著で、教育委員会が認めた者及び団体にも授与する。</p> <p>おおさかふみんネットの広域講座について、前年に引き続き開催担当市として参加し、市内の貴重な歴史や文化財について市民及び市外からの参加者へ周知啓発を行う。</p>																																																						
活動の実績	<p>体育文化奨励賞は、12月に体育及び文化の功績をたたえ、体育奨励賞(個人15人、2団体)、文化奨励賞(個人5人)の表彰を行った。おおさかふみんネットの広域講座では、大阪府内を中心に延べ113人の参加者があり、市内を散策した。</p> <p style="text-align: center;">体育文化奨励賞 表彰実績</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3"></th> <th colspan="4">体育奨励賞</th> <th colspan="4">文化奨励賞</th> </tr> <tr> <th colspan="2">個人</th> <th colspan="2">団体</th> <th colspan="2">個人</th> <th colspan="2">団体</th> </tr> <tr> <th>成績</th> <th>功績</th> <th>成績</th> <th>功績</th> <th>成績</th> <th>功績</th> <th>成績</th> <th>功績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成27年度</td> <td>9</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>11</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>11</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				体育奨励賞				文化奨励賞				個人		団体		個人		団体		成績	功績	成績	功績	成績	功績	成績	功績	平成27年度	9	2	1	0	3	2	0	1	平成28年度	11	2	1	0	0	4	0	0	平成29年度	11	4	2	0	2	3	0	0
	体育奨励賞				文化奨励賞																																																		
	個人		団体		個人		団体																																																
	成績	功績	成績	功績	成績	功績	成績	功績																																															
平成27年度	9	2	1	0	3	2	0	1																																															
平成28年度	11	2	1	0	0	4	0	0																																															
平成29年度	11	4	2	0	2	3	0	0																																															
実績の評価	評価の内容																																																						
A	<p>体育文化奨励賞での表彰を実施したことにより、体育及び文化活動の振興に寄与できた。また、「おおさかふみんネット」を開催したことにより、市内の貴重な歴史や文化財について市民及び市外からの参加者へ周知啓発を行えた。以上、上記の事業が滞りなく完了したため、評価をAとする。</p>																																																						
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳																																																				
			国府支出金 地方債 その他 一般財源																																																				
27	53 千円	14 千円	0 千円 0 千円 0 千円 14 千円																																																				
28	53 千円	15 千円	0 千円 0 千円 0 千円 15 千円																																																				
29	53 千円	17 千円	0 千円 0 千円 0 千円 17 千円																																																				
現状の課題																																																							
<p>受賞された方は、励みになっている賞である。しかし、大阪府大会、近畿大会を勝ち進み全国1位と大阪府大会1位だが、その上位大会で負けたとしても同じ賞であり、また、大阪府代表、近畿地区代表選抜での出場といった規定が無いので、競技人口が少ない種目で、いきなり近畿大会、全国大会から始まってしまう大会でも基準にあえば賞がもらえてしまう状況である。また、おおさかふみんネット広域講座の参加者数が減少傾向にあるため、新たな講座内容も含め検討が必要である。</p>																																																							
今後の取組み																																																							
<p>市民の文化スポーツへの関心、受賞意欲につながる要綱等の見直しの検討を進める。おおさかふみんネット広域講座は引き続き開催担当市として参加し、さらに市外の方へ四條畷の歴史や文化財を周知するため本事業を活用するとともに、北河内ブロックとして、大阪府府民文化部都市魅力創造局文化、スポーツ課へも大阪府としての取組み強化を提言する。</p>																																																							

重要項目	14	生涯学習の支援					担当課名	
施策目標	(6)	市民主体の教育文化活動の場、機会を創造					公民館	
主要事業	1	公民館フェスティバル						
年度の目標	<p>公民館を利用するサークルの活動成果を発表する場を設け、文化芸術活動の活性化や活動意欲の醸成を図るほか、気軽に文化芸術に触れることができる地域住民の交流の場を提供することにより、今後の公民館活動の活性化を図る。</p>							
計画の概要	<p>市立公民館を利用するサークルが主体となり、舞台の部、展示の部、模擬、バザーの部の3部門で構成する「公民館フェスティバル」を開催し、日頃の活動成果の発表や地域の交流を図る。</p>							
活動の実績	<p>平成29年5月19、20日の2日間、市民総合センター(図書館を除く)全館を使用し、「第34回公民館フェスティバル」を公民館フェスティバル実行委員会主催のもと、サークル団体等(43団体)、福祉団体(5団体)、友好都市の紀北町(2店補)の協力を得ながら展示の部、舞台の部、模擬バザーの部に分かれ開催した。</p>							
		開催日	参加団体				来場者数	サークル団体総数
			友好都市	福祉団体	サークル団体	合計		
	第32回	27.5.16・17	3	6	48	57	延3,600人	81
	第33回	28.5.14・15	3	5	42	50	延3,600人	76
第34回	29.5.19・20	2	5	43	50	延3,200人	75	
実績の評価		評価の内容						
B		<p>予定どおりフェスティバルを開催し、一定、市民の交流や公民館の活性化が図れたが、来場者が減少したため、工夫が必要なことから評価をBとする。</p>						
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳					
			国府支出金	地方債	その他	一般財源		
27	83 千円	83 千円	0 千円	0 千円	0 千円	83 千円		
28	83 千円	83 千円	0 千円	0 千円	0 千円	83 千円		
29	83 千円	83 千円	0 千円	0 千円	0 千円	83 千円		
現状の課題								
<p>公民館を利用しているサークルの団体数が様々な理由により減少傾向にあるため、支援等を行いフェスティバルの継続を図る必要がある。</p>								
今後の取組み								
<p>今後も地域活動の拠点として、地域における様々なサークル活動の学習の成果を発表する機会を提供することにより、地域社会の活性化に寄与し、学習活動や地域活動を通じて、地域の方々の交流やつながりを深めていくよう取り組む。また、今回来場者が減ったことから、新たな企画を展開し来場者の増加を図っていく。</p>								

重要項目	14	生涯学習の支援	担当課名
施策目標	(7)	地域の魅力と活力を生み出す	公民館
主要事業	①	オープンサークル	
年度の目標	サークル活動も高齢化など理由から、指導者や会員数の減少が進んでいることから、サークル活動を広く地域へ周知し、地域住民との交流の支援を通じてサークル活動及び地域の活性化を図る。		
計画の概要	<p>公民館利用サークル連絡会が実行委員会形式で主催するイベントとして、地域の方に各種サークルの紹介や気軽に活動の体験ができる「オープンサークル」を開催する。</p> <p>地域の方々に様々なサークル活動を積極的に紹介し、また体験の機会を増やすことによって、サークル活動及び地域の活性化を図る。</p> <p>主には、公民館を開放し、各サークル紹介のほか、会員などによる実演、作品展示、個別質問の受け、実施体験などを行う。</p>		
活動の実績	<p>公民館利用サークル連絡会主催のもと、平成29年9月15日から28日までの14日間にわたり、38団体が参加し第4回オープンサークルを開催した。</p> <p>今回も各サークルが実際に活動を行っている曜日と時間帯に合わせて実施し、また、9月23日(土、祝)には、曜日、時間帯には関係なく、参加可能な団体が一堂に会し行い、その結果、109人の見学者があり、新規会員の入会につながった。</p>		
実績の評価	評価の内容		
A	計画通り実施ができ、併せて祝日の一日でまとめて行うことにより見学者も増となり、会員の確保につながったことから評価をAとする。		
現状の課題			
オープンサークルの開催に伴い、サークルへ入会した方がおられたが、今後も減少していくことが見込まれることから、開催方法等の工夫が必要である。			
今後の取組み			
オープンサークルの開催により、新たな会員が増えたことから、オープンサークルを開催するとともに、今回、開催方法について工夫を行い一定の成果もあったことから、次回においても実施していく。			

重要項目	14	生涯学習の支援	担当課名
施策目標	(8)	識字施策の推進	公民館
主要事業	①	にほんご教室	
年度の目標	地域で暮らす外国人や様々な理由で、日本語の読み書きができずに日常生活に支障をきたしている方を対象に学習支援を行うとともに、日本の文化の学習、学習者同士の情報交換や市民との交流などを支援する。また、昨年度、にほんご教室が20年を迎えたことから、外国人住民に対する市民の理解を深めるための事業やボランティア講師を確保し、安定した運営を図るための講習会を開催する。		
計画の概要	毎週、木曜日及び金曜日に教室を開き、マンツーマン学習により個々に適した学習方法で日本語の習得を行うとともに、教室外においても、日本の文化の体験や地域市民との交流を図る。 また、外国人住民等に対する市民の理解を深めるため、20周年事業として学識者の講演、留学生とのワークショップ、パネル展の実施や新たなボランティア講師の確保やスキルアップのための講習会を実施するとともに、学習者が講師となり料理教室を開催し国際理解を深める。		
活動の実績	<ul style="list-style-type: none"> ○にほんご教室 11ヶ国 71人(延べ863人) <ul style="list-style-type: none"> ・毎週木曜日 10:30～12:00 ・毎週金曜日 18:30～20:00 ※年末年始、休館日等は除く ・公民館フェスティバル「外国人の主張」において7人の学習者が発表 ○教室外事業 <ul style="list-style-type: none"> ・日本文化体験として、お花見を体験するとともに、盆踊りに参加し、地域との交流を図った。 ○20周年事業 <ul style="list-style-type: none"> ・講演会(大阪産業大学国際学部 新矢麻紀子教授)・留学生とのワークショップ ・パネル展(5/20～5/21、5/22～6/23、8/29～9/9、11/4、12/17) ・日本語ボランティア入門講座(講師 澤田幸子氏)8/1～9/15 全6回 参加者34人 ・日本語ボランティア養成講座(講師 浦木貴和氏)11/6～12/4 全5回 参加者25人 ○国際理解講座 <ul style="list-style-type: none"> ・インドネシア料理編(講師 トウティスリヤンシーさん)2/24 参加者21人 ・ベトナム料理編 (講師 ファム ティユンさん) 3/18 参加者24人 		
実績の評価	評価の内容		
A	学習者の日本語の習得や日本の文化の体験、地域住民との交流が図れ、20周年事業として実施した様々な事業により、外国人等に対して市民の理解も深められ、また、新たなボランティア講師の確保にも繋がったことから評価をAとする。		
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳
			国府支出金 地方債 その他 一般財源
27	585 千円	578 千円	0 千円 0 千円 0 千円 578 千円
28	585 千円	391 千円	0 千円 0 千円 0 千円 391 千円
29	655 千円	468 千円	0 千円 0 千円 0 千円 468 千円
現状の課題			
今回、周年事業によりボランティア講師の確保は出来たが、にほんご教室は安定的な運営が不可欠であるため、増減を含め常にボランティア講師の確保が必要となってくる。			
今後の取組み			
「にほんご教室」は、外国人等の駆込み寺となっている。 「よみ・かき・ことば」など、日本語ができずに困っている外国人等の方が、いつでも来れるよう環境を整えておく必要があるため、ボランティア養成講座等を開催し、常にボランティア講師の確保に努めていく。			

重要項目	15	ひとづくりは、まちづくりプロジェクト	担当課名
施策目標	(1)	教育環境整備計画の推進	教育環境整備室
主要事業	①	教育環境整備計画の推進	
年度の目標	<p>今後の小学校の再編整備に向けて、「教育環境整備に関するアンケート」を実施する。 四條畷南中学校の休校に伴い、学校との調整や必要な予算を踏まえ、遅くとも平成29年10月頃までに具体的な対策を見出す。子どもや保護者の心的負担の軽減に努める。 四條畷南中学校休校に伴う学校再編に関する情報発信を行い、広く理解を求める。 四條畷中学校、四條畷西中学校を円滑に整備するため、引き続き関係機関と調整する。</p>		
計画の概要	<p>「教育環境整備に関するアンケート」を通して、幅広い年齢層の市民の思いや考えを伺う。 休校に伴う転籍を円滑にするため、制服の購入費や遠距離通学の通学費を補助し、通学路の安全対策を具体化し、予算措置する。 市及び教育委員会として、広報誌やホームページ、学校からのお知らせを行う。 校舎の大規模改修工事や新改築工事について、学校、業者と円滑に調整する。</p>		
活動の実績	<p>アンケート結果を9月にホームページで掲載し(概要版は7月広報誌に掲載)、小学校再編整備の情報を発信できた。 平成30年4月から四條畷南中学校から転籍予定の生徒の保護者に、制服や体操服等、14品目の購入費の全額補助を決定した。また、転籍により通学が遠距離化する地区の生徒に、鉄道、路線バスの通学費用の補助を決定し、具体的な補助方法や通学定期券の購入方法を確定させた。また、新たな通学路に、防犯カメラ15台の設置、横断歩道の4箇所の路面標示、生徒の安全を見守る人的配置の予算を措置した。 四條畷南中学校1、2学年、四條畷南小学校及び四條畷東小学校6学年の保護者に、中学校の再編整備に関するお知らせを延べ5回配布した。また、教育環境整備の考え方や整備状況を市民に周知するため、「KyouKanヘッドラインニュース(注)」第12号を発刊し、広く情報発信に努めた。さらに、ホームページに、これまでの経過を時系列でまとめた「教育環境整備インフォメーション」を開設した。 整備工事は、両校ともにグラウンド照明のLED化、特別教室の空調設置、トイレ改修及び防災拠点(蓄電池、マンホールトイレ、かまどベンチ等)を整備した。四條畷中学校では、クラブ用倉庫を新築し、更衣室棟を増設した。また、四條畷中学校と忍ヶ丘小学校の共有スペースを整備するため、旧技術棟を撤去し、跡地に小中連携棟の建設を、四條畷西中学校では、クラブ用倉庫、体育館、プール棟の建設を進めた。</p> <p>(注) KyouKanヘッドラインニュース: 市民の皆様には「学校」を取り巻く取組みや課題などを、わかりやすくお知らせするために創刊したもの。なお、KyouKanとは、教育環境の「教」、「環」と、みんなで「共感する」からネーミングしました。</p>		
実績の評価	評価の内容		
A	<p>四條畷南中学校の休校により、南中生徒の転籍に伴う対応を協議し、意見交換会や情報発信を行い、理解の向上に努めた。また、転籍に伴う具体的な対策を決定し、実行したことから、評価をAとする。</p>		
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳
			国府支出金 地方債 その他 一般財源
27	16,000 千円	11,804 千円	0 千円 0 千円 0 千円 11,804 千円
28	343,857 千円	343,857 千円	101,425 千円 233,400 千円 0 千円 9,032 千円
29	2,010,560 千円	1,612,819 千円	357,756 千円 948,900 千円 15,999 千円 290,164 千円
現状の課題			
<p>四條畷南中学校の閉校または再開校の判断と、それに伴う小学校の再編検討、また、小学校再編整備を進めるために必要な予算を確保することである。</p>			
今後の取組み			
<p>教育委員会で学校再編案を作成し、市民、保護者との意見交換、情報共有を行う。また、小学校再編に伴う予算確保のための関係機関との調整や、国への補助金申請を行う。</p>			

重要項目	15	ひとづくりは、まちづくりプロジェクト	担当課名
施策目標	(2)	社会教育施設の充実	地域教育課
主要事業	①	社会教育施設整備計画	
年度の目標	平成26年5月に策定した社会教育施設整備計画(素案)に、平成28年度から管理が移管された総合公園と北谷グラウンドの項目、(仮称)正法寺跡公園の活用内容、文化財愛護基金の活用の検討などを追加し、市民が安心して利用し、更なる文化、スポーツの普及、振興を図るとともに、優れた芸術や技術を活かせる施設とするために内容を精査して、整備計画(素案)を策定する。		
計画の概要	現在の社会教育施設整備計画(素案)に施設評価に必要な新たな実績データを追加するなど、更なる内容を精査するとともに、文化財愛護基金の活用策の検討、平成28年度から建設課より管理を移管された総合公園と北谷グラウンド、(仮称)正法寺跡公園の活用内容などを加え、公共施設等総合管理計画や個別施設計画と整合性を図りながら教育施設の適正配置と再整備に関する年次計画を策定し、社会教育委員会議の審議を経て教育委員会定例会にて報告する。		
活動の実績	社会教育施設整備計画(素案)に新たな項目を追加しながら内容精査を完了する予定であったが、公共施設等総合管理計画や個別施設計画との整合性を密に図ることが必要であることから、年次計画の策定、その後の社会教育委員会議での審議、教育委員会定例会への報告事項等は延期となった。		
実績の評価	評価の内容		
—	平成31年度完成予定の公共施設等総合管理計画や個別施設計画との整合性を密に図ることが必要であるため、29年度は検討なしとし、評価の対象外とする。		
現状の課題			
社会教育施設整備計画(素案)の内容をさらに精査しながら、公共施設等総合管理計画や個別施設計画との整合性を密に図り、年次計画を早期に策定する必要がある。			
今後の取組み			
公共施設等総合管理計画や個別施設計画との内容調整を図りながら、追加事項を含めて社会教育施設整備計画(素案)の内容の更なる精査を行い、早期に社会教育施設整備計画(案)として年次計画の策定、社会教育委員会議での審議、教育委員会定例会への報告を行う。			

重要項目	15	ひとづくりは、まちづくりプロジェクト	担当課名
施策目標	(3)	教育センターの充実	学校教育課
主要事業	①	教育センター機能充実(適応指導教室の充実、野外体験活動の実施)	
年度の目標	教育センターの体制を構築及び小中学校との連携を強化する。		
計画の概要	<p>教育センターの機能として、教育研究、研修機能、子ども支援機能を充実させる。</p> <p>教育研究、研修機能としては、全校で取り組んでいる授業改善についての研究や発信、教員研修が実施できるよう、ICT環境を整備する。(新子育て支援交付金(大阪府)及び不登校支援モデル事業(国→大阪府再委託)を活用した教育センターの環境整備)</p> <p>子ども支援機能としては、不登校対策、貧困対策、教育相談、学校支援などを充実させるため、元教員などで構成する教育センタースタッフによる定期的な学校訪問を実施するとともに、適応指導教室の適切な運営や専門家の配置に向けた体制整備を行う。</p>		
活動の実績	<p>新子育て支援交付金(大阪府)及び不登校支援モデル事業(国→大阪府再委託)を活用し、ICT環境や専門家の配置等を充実させ、研修機能や教育相談体制を改善させた。特に、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの専門家を1人ずつ拡充し、2人ずつの配置ができたことで、児童生徒の見立てから具体的支援のプランニングの助言はもちろん、悩みを抱える保護者へ丁寧に支援でき、子どもの安定が図られてきた。</p> <p>平成29年度の教育相談件数は289件あり、学校訪問による支援は200回以上あり、様々なスタッフの専門性、経験、立場による多面的な助言、支援が効果的であった。</p> <p>【資料】</p> <p>不登校児童生徒数 H27 112人、H28 81人、H29 85人</p> <p>いじめ認知件数 小学校 H27 29件、H28 355件、H29 427件</p> <p>中学校 H27 7件、H28 44件、H29 71件</p>		
実績の評価	評価の内容		
A	専門家の拡充が図れたことで、適応指導教室の運営、教育相談、学校支援等、様々な専門性から児童生徒やその保護者、学校を支援することができたので、評価をAとする。		
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳
			国府支出金 地方債 その他 一般財源
27	637 千円	637 千円	637 千円 0 千円 0 千円 0 千円
28	17,110 千円	13,024 千円	13,024 千円 0 千円 0 千円 0 千円
29	12,661 千円	12,661 千円	12,661 千円 0 千円 0 千円 0 千円
現状の課題			
不登校や個別の課題、また家庭背景や貧困対策など、学校(教員)だけでは対応が困難な課題が増加しているため、専門家の配置日数を増やすことにより教育センターの機能を充実させるとともに、学校との連携や他機関へつなぐ仕組みづくりが必要である。			
今後の取組み			
<p>スタッフ会議を通じた事業の進捗管理、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等専門家の助言を取り入れた教育相談、適応指導教室の運営等、組織体制を強化する。</p> <p>学校への訪問相談や巡回指導、ケース会議への参加等、教育センターと各小中学校が連携し、学校復帰に向けた個別のプログラムを検討、共有、実践していく。</p> <p>不登校児童生徒の居場所づくりの一環として野外体験活動を実施し、学校と対象児童生徒をつなげていく。</p>			

点検評価に関する外部評価者の意見・助言等

全体構成については、全体図を示し改善が見られたので、わかりやすい。

項目については、教育振興ビジョンを改正しているので、来年度以降はすっきりしたものに修正してほしい。焦点化、重点化についても努力が随所に見られたが、なお焦点化する部分については振返りを行い、来年度に改善してもらいたい。

評価シートのフォーマットはこの様式で定着し、一定の評価をしたいが、内容が不十分で具体性に欠けている。同じ文言でも固有名詞や数値を載せることで、メッセージ性が高まる。一般的なことはわかるが具体的な事がわかかならい箇所が多数あったので、今後改善してほしい。データ、根拠、用語解説を工夫しているので評価するが、改善できるところは改善してほしい。特に評価の根拠について、根拠となるデータがあるのに、こうだったと文書表記のみであるので、なぜそうなったのか疑問に思う所があった。その辺りも今後改善していく必要がある。

この報告書によって、本市教育行政の評価、現状、課題がわかるので、これを明らかにし市民に伝える、啓発ツールとしての役割がある。市民が見てわかりやすい、何が言いたいのかを見てわかるものにする努力を続けてほしい。表現上の工夫がいる。行政文書のような記述の項目があるので、努力が必要である。市独自の取組みは、市費で措置している等、随所に盛り込まれ良かったと思うが、市独自の人材の説明は抜けている。

昨年度と同じ表記が多数見受けられた。形骸化していると受けとめられるおそれがあるので、来年度はさらに内容精査に取り組んでいただきたい。特に、大変化の時代であるので、時代の認識をしっかりと踏まえた、表現や記述が必要である。

色々な工夫をされ、年々、内容は良くなっていると思うが、重点項目はなぜこの順番になっているのかが少し見えにくい。また、列挙されている15項目をもう少し大きいカテゴリーで分類すると、全体の構成がわかりやすいと考える。来年度のリニューアルに期待する。

評価者名 甲子園大学非常勤講師(元大阪教育大学 教授) 島 善信

評価者名 京都女子大学 教育学科 教授 岩槻 知也